

＜ 今日の説教のポイント 創世記 37章1～11節 ＞

いよいよヨセフ物語の開始。人間の物語の中に神を見るべき物語。

① 告げ口、偏愛、憎しみ — どれも私たちも起こすこと。

ヨセフ物語は、すぐに人間の不穏な姿を報告することから始まります。父ヤコブへのヨセフの告げ口(2)。年寄り子ヨセフへのヤコブの偏愛(3)。それを見た兄たちの憎しみ(4)。それぞれの問題を考えることも大切ですが、ヨセフ、ヤコブ、ヨセフの兄たちと、登場人物全員の姿であることにまず目を留めたいと思います。この後起こる出来事は、全ての人間に責任があるのです。

② では「夢」は？ 神様登場！

でも夢は違います。ヨセフが見た夢をヨセフのせいにするのは出来ません。そうです、ここで神様を考えなくてはならなくなるのです。人間が起こしたことで事は進んでいくようですが、神様もまた絡んでいることを知らされます。どういうことでしょうか？

③ ヨセフの意味は「加える」。 神様の祝福が加えられるために。

ヨセフという名前の意味は「加える」です。アブラハム、イサク、ヤコブの後を継ぐ者として、「全ての氏族が祝福に入るために(創世記 12:3)」神様はヨセフを与えて下さったのです。しかし、告げ口をし、兄たちに殺されかけ、エジプトに売られる将来が待っているヨセフのどこに神様の祝福を見れるというのでしょうか？

④ ヨセフに訪れた苦難は、後の大きな恵みにつながっていた！

ヨセフ物語は遠大な物語です。兄たちから憎まれたヨセフはエジプトに奴隷として売られ、そこで大きな苦しみを経験します。しかし、飢饉でエジプトに逃れてきた兄たちや父を救い出す日が訪れるのです。その時にヨセフはこう語ります。「しかし、今は、私をここへ売ったことを悔んだり、責め合ったりする必要はありません。命を救うために、神が私をあなたたちより先にお遣わしになったのです。」(創世記 45:4b～8)。長期間の苦悩でしたが、それはこの大きな幸いを生み出すために必要なものであったのです！ 神様のなさる業は私たちには計り知れず、またその恵みの大きさも私たちの予想を超えています。この神様を信頼して歩み続けましょう！